早稲田大学　法学部　国語

総論

満点	50点	目標得点	35点
試験時間	90分	偏差値	73
大問数	3（現代文2題・古漢融合1題）	小問数	31
【解答形式】	選択式 25／31問	記述式 5／31問	論述式 1／31問
【問題難易度】	C 5／31問	B 9／31問	A 17／31問

※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

Topics

1… 「古漢融合問題一題＋現代文二題」の大問三題＝例年通りの形式。

2… 古漢融合問題は実質古文と漢文の大問二題。現代文は抽象性の高い内容の文章を課す。大問三で一二〇字以内の論述問題を課しているのも例年通り。

3… 古文の出典は「平中物語」という頻出素材、現代文は芸術論及び柳田民俗学についての文章からの出題で、いずれも昨年度より読みやすい。しかし、問いの不適切な問題が複数見られた分、解きにくい印象が拭えない。

こんな力が求められる！

古文は語句や文法の基本的知識だけでなく、文章の構成や人物関係を的確に整理する「論理的読解力」までが求められる。十分な読解練習を積む必要がある。

漢文は古文と比較すれば平易であるが、単文が理解できるレベルでは不十分で、長文読解力が必要。ほぼ毎年出題される返り点の問題も難易度が高いことが多い。頻出の句法や語句の知識などの、漢文らしい知識ばかりでなく、文型＝主語・述語などの文の構造を意識した定期的な読解練習が不可欠。

現代文は、漢字を含めた語彙、論理的思考力、頻出テーマについての問題意識を積極的に高め、高度な評論文に対応できる読解力を育成する必要がある。また法学部では要約問題あるいはそれに類する出題がここ数年続いているため、文章構成を適切に把握し、簡潔な言葉で要約する記述力の向上も意識したい。

合格のためには、お茶ゼミOS国語クラスに所属し、テキスト所収の現代文・古文問題で、平均七割～七割五分以上の正答率を維持できることが必要。加えて、ウィークリーテストを九割平均でこなしたい。センター試験の過去問演習を八割五分（一七〇点）以上の正答率を目標にしてこなすこともまた、合格のための目安となる。

2010Ochanomizu Seminar All rights reserved.

大問別分析

【一】

予想配点 15／50点	**時間配分の目安** 25／90分
文章の種類／ジャンル 古漢融合／物語	
【出典】 （古文）「平中物語」 （漢文）「緑窓新話」	
【文字数】（古文）約一二〇〇字 （漢文）約二二〇字	
出題形式 選択式10題、記述式２題	
小問別難易度 ※問題難易度…C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 一 A　二 A　三 C　四 A　五 一つともB 六 A・BともB　七Ⅰ A　七Ⅱ C　七Ⅲ A　七Ⅳ B	
お茶ゼミカリキュラムとの関連 古文…高三夏期講習「古文読解上級」 漢文…漢文基礎、高三冬期講習「難関大漢文」	

●本大問の特徴・概要

○ 千字を超える古文の文章を中心にして、小問一つを漢文の問題とするという早稲田・法の第一問の傾向を、今年も踏襲。昨年度よりは古文・漢文とも若干問題文の長さは短くなり、読解の手間も易化した。設問の難易度も、全体としては易化した。

○ 古文の出典となった「平中物語」第一段は、他大学も含めて頻出箇所であり、受験生には読みやすかったはず。設問（一～六）も、三を除けば、基本問題と言えるものばかり。高得点を狙いたい。

○ 漢文の出典となった「緑窓新話」は頻出素材ではないが、話の内容は「紅葉良媒」という故事の一節。Ⅱを除いて、基本問題。昨年度は、漢文と古文の文章の関連性が問われる問題はなかったが、今年はⅣで問われた。が、難易度にはそれほど影響せず、気にすることではない。

●注目すべき小問

問一ノ一　正解肢中にある「讒言」は、早稲田・法受験者が備えておきたい語彙力のレベルを示す。傍線部「聞こえそこなひける」を「言ひ損なひける」の謙譲表現であると見抜く力は、基礎力レベル。

問一ノ三　傍線部の和歌が、「紅葉葉＋袖＝血涙＝深い悲しみ」を表現していることは読み取れても、それを言い表す古語を選ぶとなると、なかなか難しい。選択肢ア「かなし」は、通常古文では「いとおしい」の意味で用いられるため、正解肢としにくい。色づいた紅葉を男に送った女の気持ち＝男の恋心を詠んだ返歌を期待する気持ちを読み取り、その後、女が傍線部の和歌に「返しもせず」という態度をとったことから、男の「心づきなし（気にくわない）」との気持ちを、女が和歌から読み取ったと解釈するのも一考の余地があるものの、和歌に表現された男の気持ち＝「（血の涙を流すほどの）深い悲しみ」とはズレがある。和歌自体の意味を考察の基礎におくか、和歌前後の文脈を考察の基礎におくかの判断がつきにくい難問。

問一ノ五　傍線部及び選択肢ア・イ・エが下二段活用に接続する「なむ」であり、接続判断ができない場合の「なむ」の識別問題で、和歌の解釈をしなくてはならない点で難易度が高い。

問一ノ六　絶対敬語「啓す・奏す」の知識を聞く問題だが、各空欄部前の会話文の相手が、それぞれA＝「帝の御母后」、B＝「帝」であることを読み取らねばならない点で、難易度は高い。

問一の七Ⅱ　エ・オの選択肢が正解にならないことは解るが、ア・イ・ウのいずれが正解か、判断はつきにくい。顔も合わせたことのない男女が紅葉によって縁付いたという本文の文意を踏まえて、イを正解にすべきか。アの「自分を愛しているわけでもない女に執着して」やウの「恋文を自分に宛てたものと勘違いして」という部分は、本文の内容と若干ずれがある。愛されなければ愛する価値がないという道理はないし、流れてきた手紙にはそもそも宛先がない。

2010Ochanomizu Seminar All rights reserved.

【二】

予想配点	15／50点	**時間配分の目安**	30／90分
文章の種類／ジャンル	現代文／評論（芸術論・解釈学）		
【出典】	今道友信『美について』		
【文字数】	約三〇〇〇字		
出題形式	選択式８問　記述式３問（漢字の書き取り、抜き出し）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 一　二つともA　二　二つともA　三　B　四　C　五　A 六　B　七　A　八　一つはC・一つはA		
お茶ゼミカリキュラムとの関連	高３ＯＳ国語11～12月期テキストの各回（抽象度の高い文章）		

●本大問の特徴・概要

○　問題文の長さは標準。設問数はやや多め。昨年度に比べ、難問・悪問が増加している。（これは【第三問】も含めて言えること）

○　問三や問六のように、「選択肢を絞るために必要な着眼点が文章の表面にはなく、解答者自身が論理的推理によって積極的に探し出すように設定されている」のが早稲田大の難問のパターン。とはいえ、「難問・悪問」で時間を浪費するべきではなく、「明快な道筋が見える設問」を確実に解いて合格ライン越えを目指せばよい。

●注目すべき小問

問二ノ三　「ここからしても」という指示語が、前文の「感覚の問題ではなく、思想の問題」という論点と傍線部のイコール関係を示す。ア「意味論的に解釈する必要」が第６段落以降の対比と矛盾。イ「解釈とは心を解放する一種の遊びのような行為」ウ「人間の心のひだを描出しなければ」オ「自らも創作活動に携わり作品を完成させてみなければ」が「思想の問題」という論点とズレ。エ「精神が美的価値との一体化をめざす」が「思想の問題」の言い換えになっている。それがハッキリとわかるのは、最終段落第１文。消去法でも解けるのだが、実は「本文を最後まで読んでから解くと楽」な問題。「感覚←→思想」という抽象語を敷衍して選択肢と比較する日本語力が要求されている点で難問といえる。

問二ノ四　「言い換え箇所」の候補は複数出てくる。①第６段落「意味論的解析」②第８段落「作品を還元する」③第９段落「作品の意味論的解明」など。傍線部が動詞で終わっているという点に対応させるなら②が最も良いが、「一般者の次元に」という要素をカットしてしまうのは意味のカタマリとしては中途半端。一方、①③は意味内容の単位としてはＯＫだが、傍線部と文法的に対応しない。以上のように、設問意図の解釈によって正解が変わってしまうのは「悪問」。

問二ノ六　イとオに絞ってから先で差がつく。傍線部の主語が「理性」であるところに注目！イ「感情を他者に伝達するため…表現として…定立」、オ「思想を物的な世界に現出するため…知性的能力…十全と発揮」のどちらが傍線部の論理に近いか？

問二ノ八　第11段落、最終段落との対応でカを選ぶのは難易度Ａレベル。しかし、イとウのどちらを選ぶかの根拠は薄弱。二つの解答のうち一つができればよい。

2010Ochanomizu Seminar All rights reserved.

【三】

予想配点	20／50点	**時間配分の目安**	35／90分
文章の種類／ジャンル	現代文／評論（民俗学・柳田国男論）		
〔出典〕	鶴見太郎『柳田国男入門』		
〔文字数〕	約三一〇〇字		
出題形式	選択式7問、論述式1問（一〇〇～一二〇字）		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 一 C　二 A　三 二つともA　四 B　五 A　六 A　七 B		
お茶ゼミカリキュラムとの関連	高3Advanced3月期1回、高3Standard6月期3回（柳田国男関連の文章）		

●本大問の特徴・概要

○ 問題文の長さは標準。設問数も例年通り。

○ 問七は「本文全体あるいは意味段落の要約」をさせるという点で、早稲田・法の論述問題の例年の傾向に沿っている。

●注目すべき小問

問三ノ一　「いや」という語に着目させて論理的に解かせるのが設問意図であろう。まず、エは本文冒頭と矛盾。ウは「植民地」という語が本文の15段落以降とのつながりを予想させるが、直後の第2段落以降の論につながらなくなってしまうので×。さて、残った選択肢だが、アは前文の否定的な「言い直し」、イとオは前文の肯定的な「言い直し」だという点で「いや」という接続語のはたらきとは矛盾しない。残された解答根拠は本文全体の論旨・内容との整合性だが、「柳田を含めた日本人には皆、『郷土』に憧れる『漂泊』の心がある」のだとすれば、アのように強度の存在を否定したり、オのように郷土を過去に限定したりするより、イの方が相対的に論旨に近いことになる。制限時間内で解くのは困難。

問三ノ四　「巨視的に見れば」「もうひとつの隠された主張」という表現が、本文の第二意味段落（形式段落7～11）の要旨につながっていくことに注意！　次の段落の『漂泊』という主題をもう一度、日本人の起源論において捉え直そうとする柳田の強い動機」がイコール箇所。イとエはすぐに消去できる。ウやオでは、日本人はいつまで経っても定住しない（現在でも未だに定住していない）ことになってしまう。よってアが正解。

問三ノ七　早稲田・法の恒例の論述問題。「用いるべき三語」をヒントにすれば、「漂泊」と「定住」は本文全体のキーワード（柳田民俗学の特徴）、「植民地」は本文第15～16段落のキーワード（柳田民俗学の問題点・今後の課題）、だということが読めてくる。結局、この設問の狙いは、本文全体を「柳田民俗学とは何か→柳田民俗学の今後の課題は何か」という構成で要約させることなのだと見抜いてほしい。

解答作成にあたっては、細かい表現に拘るよりも、「質問のメインポイントに対する答えとして噛み合うように」「文章構成の点で非常識なミスをしないように」に注意すればよい。この設問でのポイントは2つ。①「この問題」の内容を要領よくまとめているかどうか。②「漂泊」の問題を「定住」の視点で解決しようとすることの不可能性について述べているかどうか。

2010Ochanomizu Seminar All rights reserved.